

週間展望・回顧(ドル、ユーロ、円)

July 23, 2021

FOMC 声明、テーパリング協議に注目

- ◆ドル円、27-28 日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) でのテーパリング協議に注目
- ◆米 6 月の個人消費支出 (PCE) 価格指数や 4-6 月期国内総生産(GDP)速報値にも注意
- ◆ユーロドル、ユーロ圏 4-6 月期 GDP 速報値と 7 月消費者物価指数速報値に注目

予想レンジ

ドル円 106.00-111.00 円
ユーロドル 1.1500-1.2000 ドル

7 月 26 日週の展望

ドル円は上値が重い展開か。27-28 日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) では、6 月の FOMC から協議され始めたテーパリング (資産購入の段階的縮小) に関して、声明文で言及されるか否かに注目が集まっている。タカ派的なシナリオとしては、声明文で正式にテーパリングの協議が表明され、8 月 26-28 日のジャクソンホール会合でパウエル FRB 議長が 9 月の FOMC でのテーパリング開始を発表する、というシナリオとなる。ハト派的なシナリオとしては、7 月の FOMC 声明文でも 6 月の同様にテーパリングへの言及がない場合だろう。市場のテーパリングに対する期待感は強く、それだけにハト派的なシナリオとなった場合の反応は大きくなりそうだ。また、26 日には米上院でバイデン米大統領が超党派と合意した 1 兆 2000 億ドル規模の「インフラ投資法案」の審議開始に向けた動議の採決が予定されている。21 日の採決では、上院民主党トップのシューマー院内総務が将来において投票を再考できる上院の規定を指摘して、賛成から反対に回ったことで、賛成 49、反対 51 で否決された。共和党は、財源問題が解消されていないことから、審議入りに向けた採決の延期を求めているものの、民主党は 26 日に再び採決を行う意向を示している。

経済指標では、29 日に発表される 4-6 月期国内総生産 (GDP) 速報値は前期比年率+8.0%と予想されており、1-3 月期の+6.4%からの改善が見込まれている。また、30 日には、米連邦準備理事会 (FRB) がインフレ指標として注視している米 6 月個人消費支出 (PCE) 価格指数が予定されている。数字次第では米金利とともに大きく反応する可能性もあり注意したい。更に、米政府では 31 日に連邦債務上限の適用停止措置が期限切れとなることから、今月中の上限引き上げが求められている。イエレン米財務長官は、連邦政府の債務上限を早急に引き上げるか上限適用を停止するよう議会に要請するとともに、このままでは 8 月中にも米国が債務不履行 (デフォルト) に陥る深刻なリスクがあると警告している。引き続きこれらの動向にも注意が必要だろう。

ユーロドルは、ワクチン接種の進捗で景況感が改善しているが、ユーロ圏 4-6 月域内総生産 (GDP) 速報値や 7 月の消費者物価指数の速報値に注目。ただ、欧州中央銀行 (ECB) が、インフレ目標を 2%に引き上げ、金融政策の先行きを示す指針「フォワードガイダンス」を変更。物価上昇率が一時的に 2%から上振れても容認することを決め、大規模緩和の継続姿勢を強調したこともあり、ユーロの上値は限定的か。

7 月 19 日週の回顧

ドル円は、米 10 年債利回りが 1.12%台から 1.30%台まで上昇したことで、109.07 円から 110.39 円まで上昇。ユーロドルは、1.1752 ドルから 1.1830 ドルまで上昇したものの 1.1757 ドルまで反落。ECB 理事会ではフォワードガイダンスが変更され、大規模緩和の継続姿勢が強調された。ユーロ円は週初のリスクオフから一転リスクオン相場となった。128.60 円から 130.30 円まで上昇している。(了)